

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査速報

●実施状況

平成 26 年 9 月 18 日に成魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 22.9～23.9℃、無風または北東寄りの風 2.8～4.7m であった。調査当日は小潮で、干潮が 6 時 27 分、満潮が 14 時 31 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 0.9～2.4m であり、St.25 では赤潮状態であった。また、底層の DO は St.25、35、22 は 1mg/L 以下とほぼ無酸素状態であったが、St.10 は 3.4mg/L と他の地点に比べて酸素量はやや高かった(水産用水基準では夏季に下層で最低限確保しなければならない酸素量は 4.3mg/L)。

今回の調査では、いずれの地点も、魚類は確認されなかった。

	St.25	St.35	St.22	St.10
作業時刻	8:55-10:06	10:24-10:55	11:20-11:48	11:59-12:33
水深(m)	16.0	25.5	14.9	8.5
天候	曇り	曇り	曇り	曇り
気温(℃)	22.9	23.8	23.2	23.9
風向/ 風速(m/sec)	E/4.7	NNE/4.0	NNE/2.8	無風
水温(℃)	23.0 21.9	23.4 21.6	23.8 22.3	24.0 22.9
塩分(ー)	22.6 32.9	29.3 33.4	28.1 32.8	28.0 31.3
透明度(m)	0.9	2.4	1.7	1.6
DO(mg/L)	8.1 0.1	7.5 0.1	8.6 0.8	8.3 3.4
DO飽和度(%)	107.7 2.0	103.8 2.0	120.4 10.5	116.3 47.8
波浪(m)	0.5	0.5	0.3	0.2
pH(ー)	8.3 7.9	8.4 7.9	8.5 8.1	8.4 8.5
水の臭気	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	カビ臭(上層) なし(下層)	なし(上層) 磯臭(下層)
備考	2 回目の曳網で網を底に着けることができた。			ホンビノスガイの死殻が大量に混じった海底の泥は、腐敗臭がした。

上段:表層 0m 層 下段:海底面上 1m 層

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。魚類は確認されなかった。)

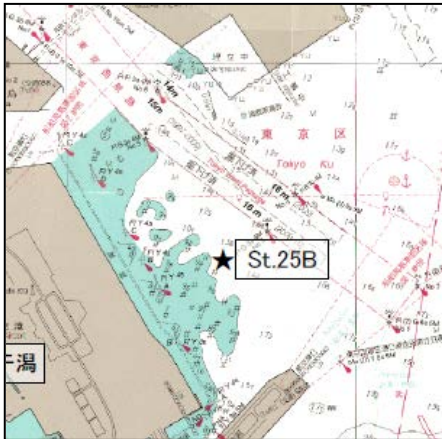
主な出現種等	St.25	St.35	St.22	St.10
魚類	なし	なし	なし	なし
魚類以外 (目立った種)	なし	なし	なし	ホンビノスガイ(r)
備考	死殻のみ(トリガイ、チヨノハナガイ、マルバガニなど)	死殻のみ(タイラギ、トリガイ、ツキガイモドキなど)	死殻のみ(、タイラギ、ゴイサギガイ、イヨスダレガイなど)	ホンビノスガイの死殻が大量に採取された

注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

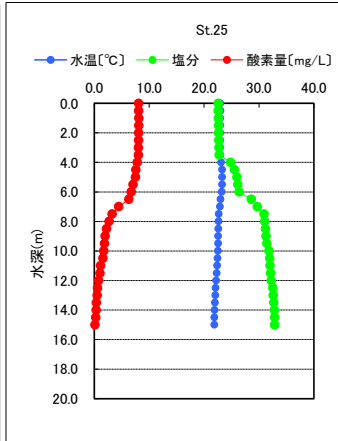
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.25

調査地点位置



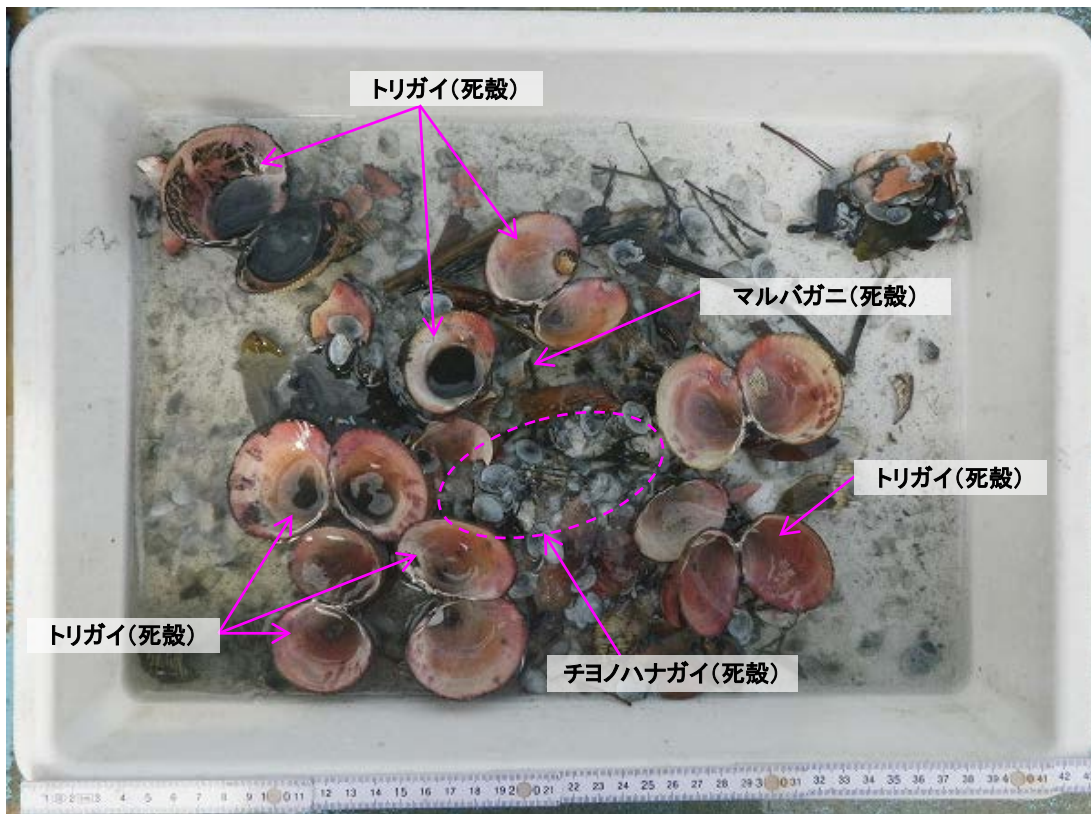
水質状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料

海底付近は無酸素状態であった。



主な出現種（死殻含む）



トリガイ(死殻)



チヨノハナガイ(死殻)

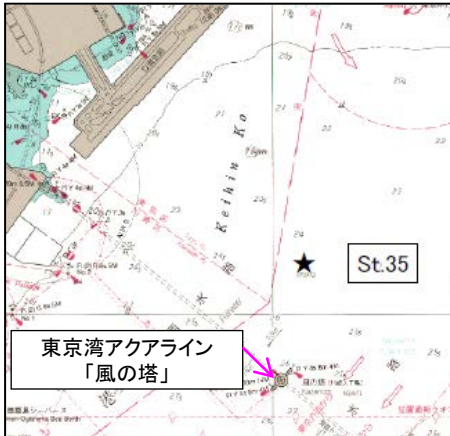


マルバガニ(死殻)

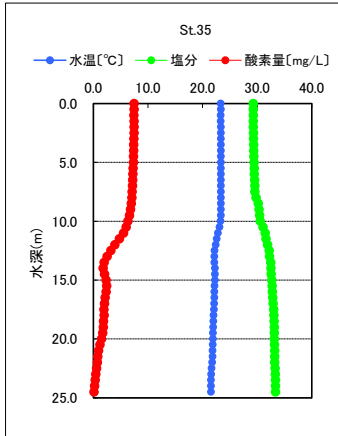
トリガイ、チヨノハナガイ、マルバガニなどの死殻が採取されたが、生きている生物は確認できなかった。海底付近はほぼ無酸素状態であり、これらの生物が生きていくことのできない環境になっていたと考えられる。5月30日に行った調査では、生きたトリガイが確認されている。

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。写っているのは調査船。

海底付近は無酸素状態であった。

採取試料



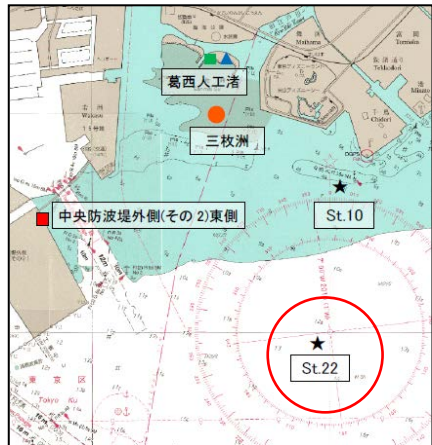
主な出現種 (死殻含む)



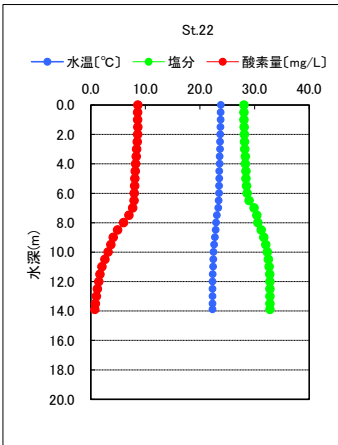
タイラギ、トリガイ、ツキガイモドキなどの死殻が採取されたが、生きている生物は確認できなかった。陸上動物のものと思われる骨も採取された。海底付近はほぼ無酸素状態であり、これらの生物が生きることのできない環境になっていたと考えられる。湾奥部に生息するタイラギは、貧酸素の影響で概ねこのサイズ(10cm程度)で死滅する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



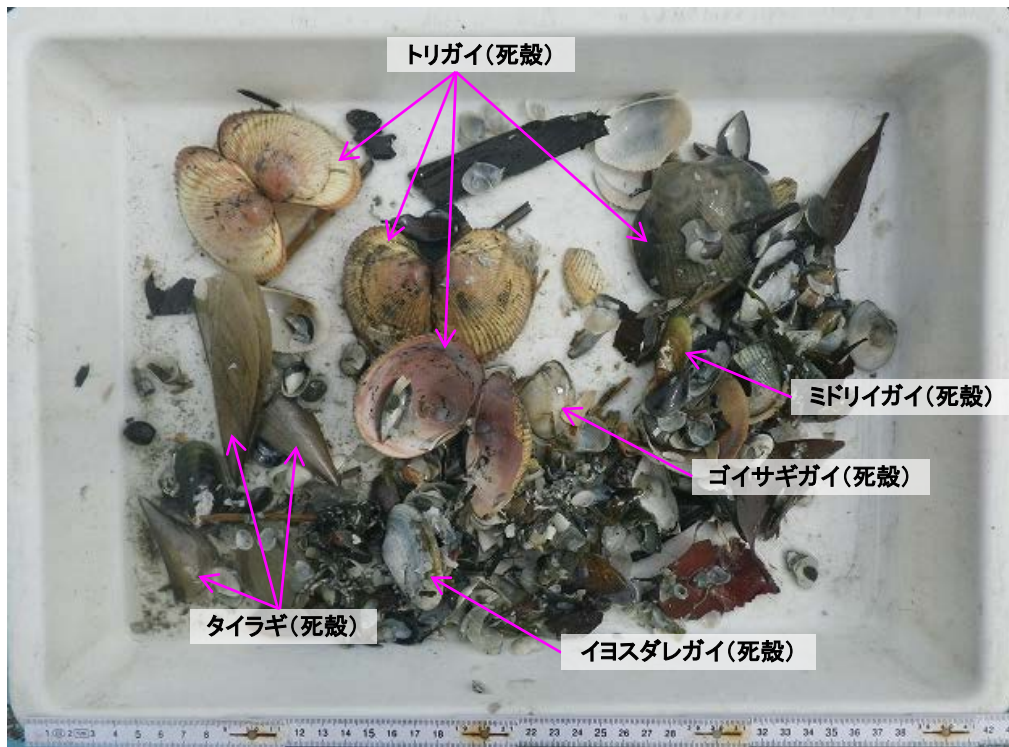
地点状況



北側には東京ディズニーリゾートが見える。

海底付近のDOは0.8mg/Lとほぼ無酸素状態であった。

採取試料



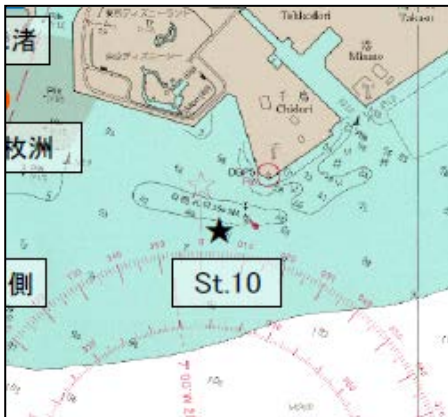
主な出現種 (死殻含む)



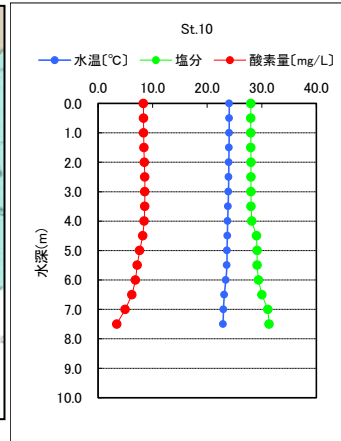
タイラギ、ゴイサギガイ、イオスダレガイなどの死殻が採取されたが、生きている生物は確認されなかった。海底付近はほぼ無酸素状態であり、これらの生物が生きることができない環境になっていたと考えられる。イオスダレガイの死殻は表面がかなり劣化しており、最近死んだものではないと考えられる(イオスダレガイは、内湾の潮下帯の砂泥底に生息する二枚貝)。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京スカイツリーや東京ディズニーリゾートが見える。

海底付近の DO は 3.4mg/L と他の地点に比べて酸素量は多かった。

採取試料



主な出現種 (死殻含む)



ホンビノスガイ(外来種)の死殻が大量に採取され、生きているものも4個体確認された。ホンビノスガイは貧酸素状態などの環境悪化に耐性があるため、夏場の貧酸素状態を乗り越えることができたと考えられる(殻の色は本来白っぽい、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている)。ホンビノスガイの死殻が大量に混じった海底の泥は、腐敗臭がした。